はじめに

●この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

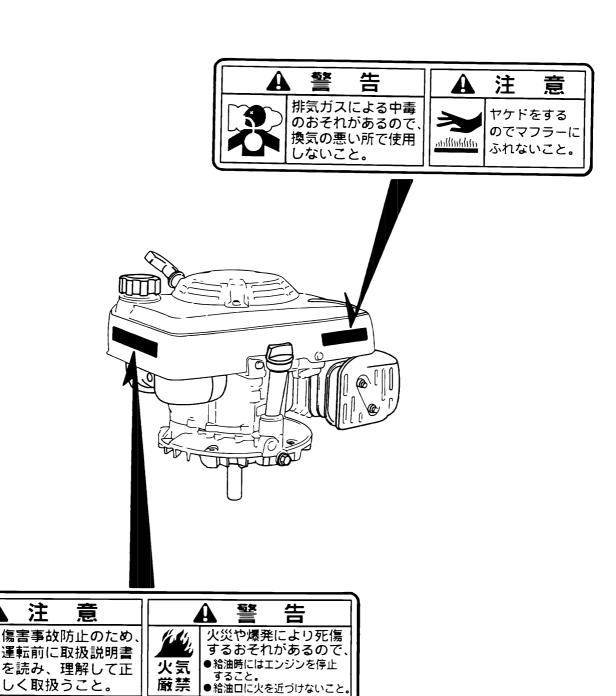
●エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
●エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
●紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

●なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

●**安全ラベル**

Hondaエンジンを安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

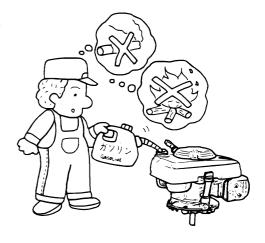
※安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

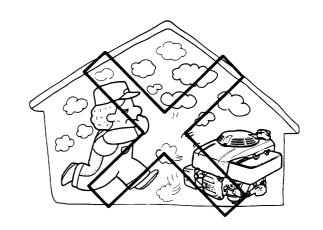
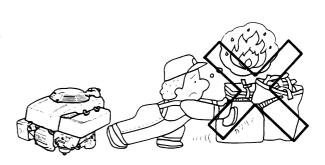
警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(5～7 頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にもエンジンの運転操作をさせないでください。特に子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、最寄りのHonda汎用営業所(巻末一覧)にご相談ください。
- エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

警告

- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。

- 思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から１ｍ以上離して設置してください。
- エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。

- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。
  熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 運転中は高電圧コードやプラグ キャップに触れないでください。感電のおそれがあります。

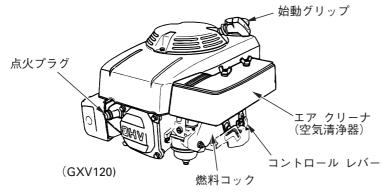
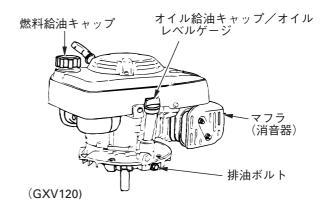
エンジンを始動する前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。

各部の名称と点検箇所

(GXV120)

(GXV120)

ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

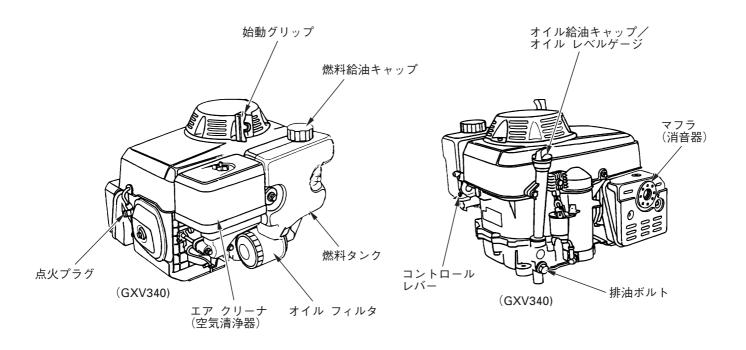
《点検》
エンジンを水平にし、燃料給油キャップを外し、注入口より燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

タンク容量：GXV120：1.0ℓ
GXV160：2.0ℓ
GXV270：2.0ℓ
GXV340：2.3ℓ
GXV390：2.3ℓ

《補給》
使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

取扱いのポイント

- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エア クリーナ（空気清浄器）の点検

・エア クリーナ カバーを外し、ろ過部（ウレタン、紙製）が汚れていないか、点検します。
・汚れている場合は清掃してください。（清掃方法は11頁参照）
・汚れているとエンジン性能が低下します。

エア クリーナ カバー

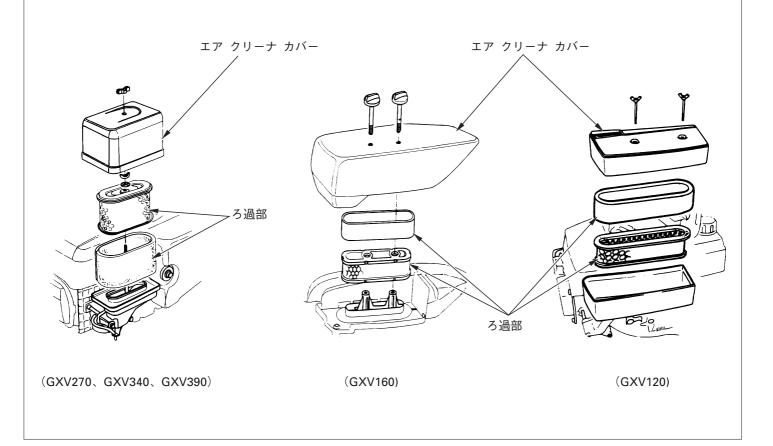
ろ過部

（GXV270、GXV340、GXV390）

エア クリーナ カバー

ろ過部

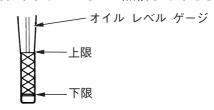
（GXV160）

（GXV120）

エンジンを始動する前に点検しましょう

エンジン オイルの点検

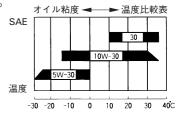
《点検》

・エンジンを水平にしてオイル給油キャップの回りを清掃します。
・オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルを拭取ります。
・オイル給油キャップをねじこまずにオイル注入口に差し込み、上限までオイルがあるか点検してください。

オイル給油キャップ／
オイル レベル ゲージ

《補給》

・不足している場合は、新しいオイルをオイル レベル ゲージの上限まで補給します。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は12頁参照)

《推奨オイル》(４サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正　ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルを
ご使用ください。

取扱いのポイント

・低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
・寒冷時(気温－15°C以下)では、Honda純正汎用寒冷地オイルSAE5W-30またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

バッテリの点検(セルフ スタータ付)

・バッテリは別売部品です。セルフ スタータ付エンジンをお買いあげいただいだ方は、お買いあげ販売店にご相談の上、適正なバッテリをご購入ください。
・バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。
バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
・バッテリの接続がまちがっていないか、また締付けナットがゆるんでいないか点検してください。

⚠警告

・バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
・バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
・バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側からはずしてください。
工具などが接触するとショートする場合があります。

オイル　アラート (オイルアラート付タイプのみ)

焼付防止エンジン自動停止装置

上記エンジン オイル量の点検を必ず行ってください。
エンジン オイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。エンジン オイルを補給してください。エンジン オイルが不足したままでは始動できません。

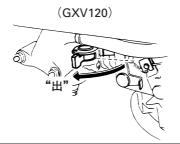
エンジンのかけかた

⚠警告
・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

かけかた

1

燃料コック

・燃料コック レバーを“出”の位置に合わせます。

（GXV120）

（GXV120以外）

↓

2

コントロールレバー

・コントロールレバーを“始動”の位置にあわせます。

（GXV120、GXV160）

・エンジンが暖まっているときはコントロールレバーを停止の位置から矢印の方向に少し動かします。

（GXV270、GXV340、GXV390）

（GXV120、GXV160）

（GXV270、GXV340、GXV390）

↓

3

始動グリップ

・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

取扱いのポイント

・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

エンジンスイッチ
セルフスタータ付

・エンジン スイッチを“START”(始動)の位置まで回しエンジンを始動します。

・エンジンが始動したら、エンジン スイッチを“ON”(運転)の位置に戻します。

取扱いのポイント

・セルフ スタータを回して５秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

4

始動

・２～３分間暖機運転を行ってください。

5

コントロールレバー

・コントロールレバーを、使用する回転数に調整します。

（GXV120、GXV160）

（GXV270、GXV340、GXV390）

エンジンのとめかた

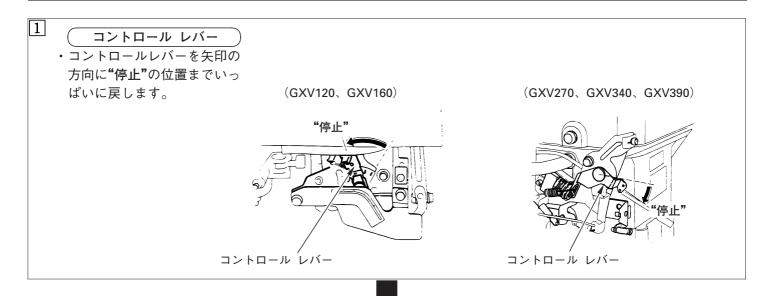
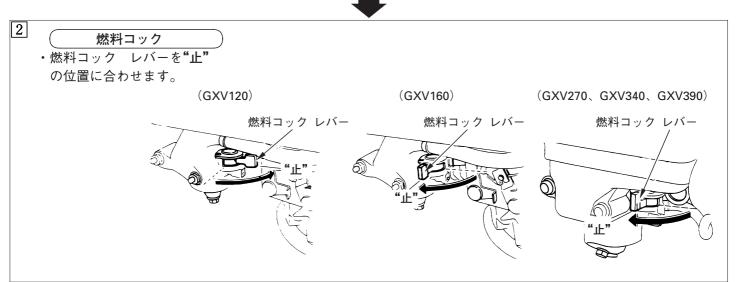
1 **コントロール レバー**

・コントロールレバーを矢印の方向に**“停止”**の位置までいっぱいに戻します。

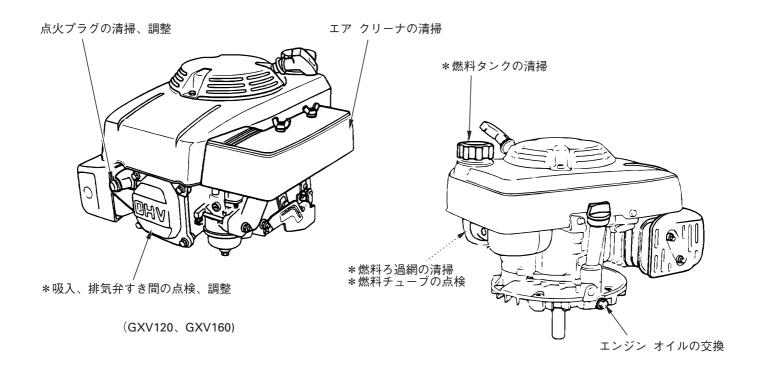
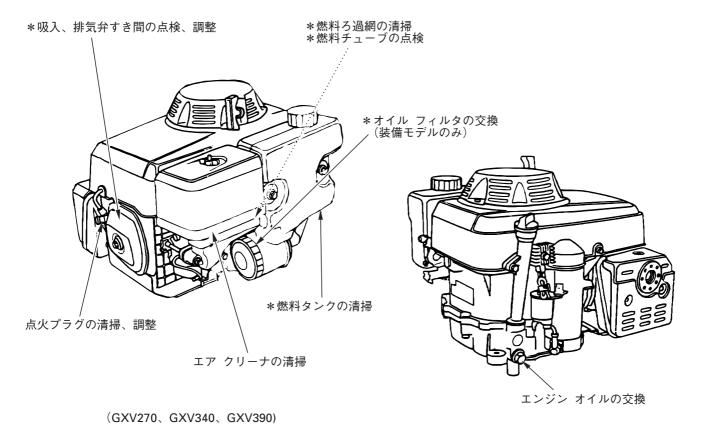
2 **燃料コック**

・燃料コック　レバーを**“止”**の位置に合わせます。

手入れのしかた

⚠警告

・点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。
・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

（GXV120、GXV160）

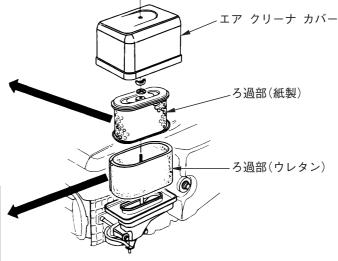
（GXV270、GXV340、GXV390）

＊の項目は販売店で実施していただく点検、整備です。

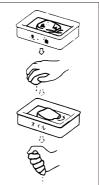
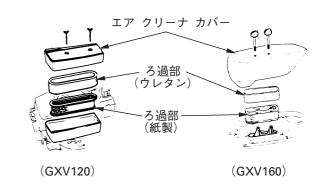
エア クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換

エア クリーナが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。
《清掃時期》…… 3 か月毎または50時間運転毎
ほこりの多い場所で使用した場合は10時間毎または 1 日 1 回清掃してください。
《交換時期》…… 1 年毎または200時間運転毎（紙ろ過部）

紙ろ過部の清掃

・内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。

（GXV270、GXV340、GXV390）

ウレタンろ過部の清掃

・洗い油で洗い、よく絞ってから乾かします。乾燥後ろ過部（ウレタン）をエンジン オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

（GXV120）　（GXV160）

⚠警告

・洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
・清掃は換気の良い場所で行ってください。

取扱いのポイント

・エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
・オイルをつけすぎないように注意してください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

・エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》……初回：１か月または20時間運転時、以後：６か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（４サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正　ウルトラＵ汎用（SAE10W-30）

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《オイル容量》 GXV120：0.6ℓ

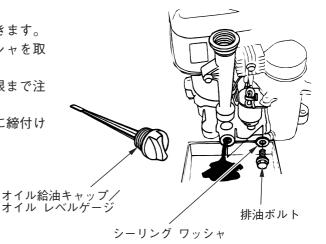
GXV160：0.65ℓ

GXV270、GXV340、GXV390： 1.1ℓ

取扱いのポイント

・低温時（気温10°C以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
・寒冷時（気温－15°C以下）では、Honda純正汎用寒冷地オイルSAE5W-30またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。

《交換方法》

１．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
２．排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
３．新しいエンジン オイルをオイル レベル ゲージの上限まで注入します。
４．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
・外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

・エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・清掃時期》…… 6か月毎または100時間運転毎
《交換時期》…… 1年毎または200時間運転毎

《清掃》
1．点火プラグ キャップを外して、プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2．汚れている場合はワイヤ ブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※プラグ レンチ、ワイヤ ブラシは別売りです。

《点検・調整》
・側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。
プラグすきま：0.7－0.8 mm
取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。プラグ キャップを確実に取付けます。

《指定プラグ》
BPR5ES(NGK)　　W16EPR-U(DENSO)

取扱いのポイント

・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

販売店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に実施していただく項目があります。お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

・吸入、排気弁すきまの点検・調整……………………………1年毎または200時間運転毎実施
・オイル フィルタの交換……………………………………1年毎または300時間運転毎実施
・燃料タンク、燃料ろ過網の清掃……………………………1年毎または200時間運転毎実施
・燃料チューブの点検…………………………………………2年毎(必要なら交換)
・アイドリング回転の点検・調整……………………………1年毎または200時間運転毎実施
・フライホイールブレーキ　パッドの点検(装備タイプのみ)………初回：1か月目または20時間時、
以降：6か月毎または100時間運転毎実施
・燃焼室の清掃…………………………………………………250時間運転毎(注)

(注) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

エンジンがかからないとき

《セルフスタータ付》…………………バッテリあがり等でセルフ スタータが使用できない場合は、始動グリップを引いて始動してください。

・バッテリが充電しない場合…………バッテリを点検してください。

①ガソリンは十分に入っていますか?

●入っていない場合は補給してください。

②エンジン オイル量が不足していませんか?
(オイル アラート付タイプのみ)
・エンジン オイルが不足しているとオイル アラートが働いてエンジン スイッチを“ON”にしても始動しません。

●少ない場合は口元までエンジン オイルを入れてください。

OK

③圧縮圧力は十分ですか?
・始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が洩れている可能性があります。

NO

OK

④点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか?

●ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しいプラグと交換してください。

⑤点火プラグのすきまは正しいですか?
・プラグすきまは0.7ー0.8 mmです。

●すきまが正しくないときは調整してください。

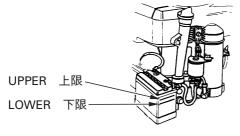
⑥点火プラグを取付けて再度始動してください。

NO

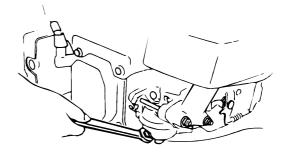
・お買いあげの販売店にお申しつけください。

バッテリの取付けと点検
（セルフスタータ付）

《取付け》
1．バッテリは12V-18AH以上の仕様のものを使用してください。
2．バッテリとエンジンの間のコードは自動車専用ビニール被覆電線（低電圧用）で断面積が8 ㎟以上のもので圧着端子付きを使用してください。コード長さは1 m以内にしてください。
3．バッテリ端子にグリース等を塗布し保護してください。さらに⊕端子にはカバーをしてください。
4．バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。もし、リセット スイッチのボタンが上がっている時は⊕⊖の配線接続を確認してからボタンを押して復帰させてください。

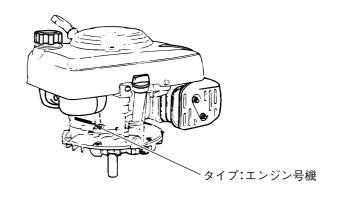
《点検》
● バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
● 端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
● 長期保管後使用するときや、バッテリがあがり気味のときは補充電を行ってください。

⚠警告
・バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
・バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

⚠注意
バッテリに表示されている警告と説明文をよくお読みになり、使用してください。

長期間使用しないときの手入れ

⚠警告
• ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
• ガソリンを抜くときは
　・火気を近づけないでください。
　・換気の良い場所で行ってください。
　・ガソリンはこぼさないように抜いてください。
　・万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

● 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
● 燃料タンク、キャブレータ（気化器）内のガソリンを抜きます。
● エンジン オイルを交換します。
● ビニール等でカバーをします。
● 湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント
・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。
（6 か月に 1 回新しいオイルと交換）

タイプとエンジン号機の表示位置

主要諸元

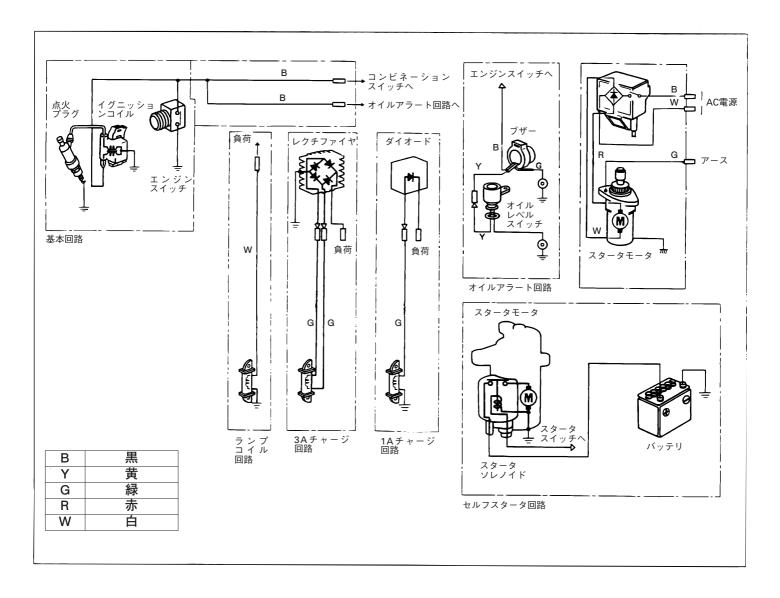
寸法はN2クランク使用機の数値です。（GXV120）　寸法はN1クランク使用機の数値です。（GXV160）

名　称	GXV120	GXV160
型　式	GXV120	GJ03
全　長	375 mm	415 mm
全　幅	330 mm	359 mm
全　高	315 mm	354 mm
乾燥重量	12.5 kg	14.5 kg
形　式	空冷4サイクル立軸ガソリン(OHV)	
総排気量	118 cm³	163 cm³
定格出力／回転速度 〔最大出力〕	1.5kW(2.0PS)/3,000rpm 〔2.9kW(4.0PS)/3,600rpm〕	2.1kW(2.8PS)/3,000rpm 〔4.0kW(5.5PS)/3,600rpm〕
使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	1.0 ℓ	2.0 ℓ
点火方式	トランジスタ式マグネトー点火	トランジスタ式マグネトー点火
始動方式	リコイルスタータ	リコイルスタータ/セルフスタータ

名　称	GXV270	GXV340	GXV390
型　式	GJ01	GJ02	GJAA
全　長	410 mm	430 mm	430 mm
全　幅	385 mm	385 mm	385 mm
全　高	405 mm	410 mm	410 mm
乾燥重量	28.0 kg	32.0 kg	33.0 kg
形　式	空冷4サイクル立軸ガソリン(OHV)		
総排気量	270 cm³	337 cm³	389 cm³
定格出力／回転速度 〔最大出力〕	3.7kW(5.0PS)/3,000rpm 〔6.3kW(8.5PS)/3,600rpm〕	5.1kW(7.0PS)/3,000rpm 〔8.1kW(11.0PS)/3,600rpm〕	5.8kW(8.0PS)/3,000rpm 〔9.6kW(13.0PS)/3,600rpm〕
使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン		
燃料タンク容量	2.0 ℓ	2.3 ℓ	2.3 ℓ
点火方式	トランジスタ式マグネトー点火		
始動方式	リコイルスタータ/セルフスタータ		

※諸元は予告なく変更することがあります。

配線図

B	黒
Y	黄
G	緑
R	赤
W	白

ご相談窓口のご案内

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた**販売店**または下記の〈**ご相談窓口**〉にお気軽にお申しつけください。

ご　相　談　窓　口

〈Honda営業所・事務所〉

事業所	電話番号	住所
東北汎用営業所	022―287―2215	〒984-0011　宮城県仙台市若林区六丁の目西町１―10
東北汎用営業所 盛岡営業所	019―631―1322	〒020-0864　岩手県盛岡市西仙北１―15―７
関東汎用営業所	03―5993―1211	〒115-0055　東京都北区赤羽西６―36―２
前橋汎用営業所	027―255―5844	〒371-0855　群馬県前橋市問屋町２―13―18
中部汎用営業所	0568―76―3881	〒485-0072　愛知県小牧市元町４―77―１
関西汎用営業所	0726―22―8520	〒567-0036　大阪府茨木市上穂積１―１―28
中国汎用営業所	0829―34―0061	〒738-0033　広島県廿日市市串戸１―９―46　ハグマビル　１Ｆ
四国汎用営業所	087―841―0577	〒761-0113　香川県高松市屋島西町1955
九州汎用営業所	092―962―0577	〒811-0112　福岡県粕谷郡新宮町大字下府587―１
北海道ホンダ販売㈱ 汎用事業本部	011―895―6627	〒004-0042　北海道札幌市厚別区大谷地西６―３―１

〈Honda　Ｓ店〉

Honda　Ｓ店	電話番号	住所
㈱山本産業	0538―35―5252	〒438-0833　静岡県磐田郡豊田町弥藤太島532
㈱ジイー・エイチ・ジイー	0582―45―8856	〒501-6001　岐阜県羽島郡岐南町上印食６―25
㈱北西産業	052―722―6111	〒464-0084　愛知県名古屋市千種区松軒１―５―25
㈱ホンダ農発岡山販売所	086―241―1275	〒700-0944　岡山県岡山市泉田349

おことわり
区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

GXV120
GXV160K1
GXV270K1
GXV340K1
GXV390

30ZE6602
00X30-ZE6-6025

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。